

2022 年度事業報告書

公益財団法人医食同源生薬研究財団

当財団は、太古より生薬として重宝されてきた農作物や水産物によって人々を元気にし、年をとっても元気澆刺で働ける世に変える、いわゆる「医食同源」の社会実装による新たな社会の構築を目指し、2021年4月14日に設立、2022年4月1日に公益財団法人の認定を受け事業を行っている。

当財団では、健康に良い、疾患を予防するということが経験的にわかっているものの、その医学的根拠の脆弱性から広い世の中に埋もれてしまっている農水産物由来の食品について、その効果・効能について医学的根拠となる実証的研究を実施・支援し、その結果を広く公知することによって、医食同源の考えに基づく食生活の改善を促進し、もって食を通じた人類の心身の健全な発達や健康の維持に寄与すること、並びに生活習慣病の蔓延による我が国の医療費増大の抑制に、社会実装の実現によって貢献することを事業の目的としている。その目的を果たすべく、2022年度は財団主導研究、研究助成、貢献者への褒賞、広報活動を実施した。

1 財団主導研究

- (1) 幼稚園・保育園における給食で提供される米飯の種類が COVID-19 感染に与える影響の検討（研究協力機関：ミールケア社ほか）

調査対象を半径 10km 以内の幼稚園・保育園に絞り込み、対象園に保存されているこれまでの園児の COVID 19 の感染による出欠者数が、給食における加工玄米か白米かの違いにより影響があるかを検討する。2022 年度のプロトコル委員会で研究実施計画が承認され、研究開始。研究は、2024 年度までの予定で実施される。

- (2) 健常人を対象とした玄米サプリメントの継続服用による免疫機能および睡眠の質への影響（東北大学との共同研究）

20～64 歳の健康な男女に、1 日 1 回、12 週間、玄米の成分を含有したサプリメントまたはプラセボを摂取してもらい、玄米サプリメントを摂取した群とプラセボを摂取した群の免疫機能や睡眠の質、心身の健康状態や生活の質を比較する。2021 年度のプロトコル委員会で研究実施計画が承認され、その後東北大学での内部手続等を経て 2022 年度から研究開始。研究は、2024 年度までの予定で実施される。

(3) 保育所給食の質が新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等の感染状況に及ぼす影響（中村学園大学との共同研究）

福岡市内の約 300 の保育所を対象に、主としてアンケート方式で給食内容と新型コロナ感染症等の罹患状況等の情報を収集し、両者の関係を解析する。2022 年度のプロトコル委員会で研究実施計画が承認され、研究開始。研究は、2024 年度までの予定で実施される。

(4) この他、以下 3 つの研究テーマを財団主導研究とすることとし、研究開始に向けて準備を進めた。

- ① 高タンパク質かつ良食味米の育種およびその評価（東京農業大学との共同研究。2022 年度のプロトコル委員会で研究実施計画承認）
- ② 亜糊粉層残存無洗米導入前後の残食率比較研究（神戸大学医学部附属病院との共同研究。研究実施計画を作成中）
- ③ 脂肪肝合併肥満症患者を対象とした玄米サプリメント摂取による脂肪肝改善を検証するプラセボ対照二重盲検ランダム比較試験（神戸大学医学部附属病院との共同研究。研究実施計画を作成中）

2 研究助成事業

(1) 研究助成

研究助成募集要綱に基づいて公募し、35 件の応募があった。選考委員会での審査を経て、以下 7 件を採択した。

No.	研究課題名	所属・氏名
1	フェルラ酸による軽度アルツハイマー型認知症患者に対する治療効果の検討：二重盲検ランダム化比較試験 (RCT)	東京歯科大学市川総合病院精神科
		准教授 宗 未来
2	青ジソの抗脳老化作用の分子基盤の解明と、その摂取による前頭前野機能改善効果の検討	名古屋市立大学医学研究科統合解剖学
		教授 植木 孝俊
3	全国の玄米摂取量の増加による生活習慣病の予防効果と医療費・介護費の抑制効果	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
		室長 池田 奈由
4	高血圧予防における昆布出し穀の活用法の検討	神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程
		教授 栗原 伸公
5	市販の国産桑の葉茶食品による食後血糖上昇抑制とその臨床的意義に関する臨床研究	岡山大学 学術研究院 医歯薬学域
		教授 有吉 範高

6	テアニンの睡眠改善効果がアルギニンとの併用摂取により増強するか	鹿児島大学 医学部 保健学科
		准教授 古島 大資
7	大豆胚芽抽出物摂取による健康増進効果に関する研究	自治医科大学 TR 研究推進部
		講師 寺谷 工

(2) 論文助成

論文助成募集要綱に基づいて公募し、第1回は3件、第2回は4件の応募があった。選考委員会での審査を経て、以下計2件を採択した。

第1回

No.	論文名	所属・氏名
1	ホーリーバジル (<i>Ocimum tenuiflorum</i>) の抽出物およびフェノール化合物の抗糖化作用	東京農業大学 生物産業学部 食香粧化学科 助教 金嶋 泰

第2回

No.	論文名	所属・氏名
1	ポリフェノール含量の多い東北産食品タカキビ抽出物の脂肪細胞分化に関する研究	宮城学院女子大学 食品栄養学科 教授 益見 厚子

3 貢献者への褒賞

2022年7月に褒賞者募集要綱を策定。現在、対象者を公募中である。(募集期間2022年7月1日～2023年8月31日)

4 広報活動

(1) ホームページでの広報

当財団における研究成果や研究助成情報、シンポジウム・講演会情報などを告知した。

(2) シンポジウム・講演会の開催

- ① ifia/HFE Japan2022にて、穀物の機能性セミナーを開催するとともに、ブース

出展を行った。

【穀物の機能性セミナー】

日時：2022年5月19日（木）13:00～14:05

場所：東京ビックサイト西ホール

座長：当財団評議員 末松広行

基調講演：当財団代表理事 米井嘉一

【ブース出展】

日程：2022年5月18日（水）～20日（金）

場所：東京ビックサイト西ホール

② 第24回糖化ストレス研究会～免疫力強化と感染症対策を意識した機能性食品～を共催した。

日時：2022年5月20日（金）10:25～16:00

場所：東京ビックサイト会議棟

講演者：当財団名誉会長 雑賀慶二、当財団代表理事 米井嘉一、当財団選考委員長 渡辺賢治など

(3) 積極的な情報発信

当財団の活動内容が国民の目に触れるよう、プレスリリースを1件行い情報発信した。

以上